

看護職員の労働時間問題に関する研究委員会報告書

看護職員の労働時間問題に関する研究委員会

(主査)	酒井 一博	労働科学研究所所長
(構成組織委員)	島 卓	UAゼンセン総合サービス部門執行委員
	伊藤 邦彦	自治労総合政治政策局衛生医療局長
	伊藤 彰英	基幹労連政策企画局中央執行委員
	田村久実子	ヘルスケア労協中央委員
	河野 裕香	ヘルスケア労協中央委員
(連合委員)	杉山 豊治	連合雇用法制対策局長
	小林 司	連合生活福祉局部長
	高木 禎之	連合組織拡大・組織対策局長

看護職員の厳しい勤務環境、とくに夜勤・交代制勤務と長時間労働は、ワーク・ライフ・バランス、健康確保の観点から大きな負担となっており、離職につながる大きな要因の一つにもなっている。

連合総研は、連合から委託を受け、「看護職員の夜勤・交代制勤務に関するガイドライン」を策定するために「看護職員の労働時間問題に関する研究委員会」（主査：酒井一博労働科学研究所所長）を2013年4月に設置し、検討を重ねてきた。

研究委員会では、看護職員の勤務実態や各方面からのヒアリング等を踏まえ、看護職員に対する休日の付与の仕方を見直し、深夜勤の負担を減らす観点から、10項目からなるガイドラインを提起した。このガイドライン策定にあたって重視したポイントは、①「24時間+α」を確保する実質的な休日の実現、②労働時間管理の徹底と業務整理による時間外労働の削減、③ライフスタイルやライフステージに合わせた選択可能で弾力的な勤務編成の3点である。

目次

- 第1部 看護職員の働き方の現状と課題
- 第2部 よりよい夜勤・交代制勤務の実現に向けて
 - 第1章 ガイドラインの基本的な考え方
 - 第2章 看護職員の夜勤・交代制勤務に関するガイドライン
 - 第3章 ガイドラインの使い方～取り組みの手引き
- 資料編